

特集 老いの坂道を支え合って共に生きる

▶平日昼食は毎日作業場でのお弁当。120食分(最大150食分)のお弁当を4人体制で調理、配膳。何よりチームワークが大切。



▶介助度が高い利用者は全体より30分早く食事を開始。丁寧に笑顔で一人ひとり介助することを心掛ける。



医食同源①

「消えてなくなるものに渾身の力を…」

この人たちへの食事提供は聖職の心で！

施設の暮らしに甘んじ 身を置いて、一日一日を積み重ねて働くこと生きること
ねてくれているこの人たち。その



発行日 2015. 11. 30
第 232 号
(第 1 回発行)
1974年4月1日
発行所 北総育成園
千葉県香取郡東庄町
笹川い5852
☎ 0478-86-3003
FAX 0478-86-3295

北総育成園のホームページが新しくなりました！

施設の概要や理念、利用者の様子、園長からのお知らせ等、盛りたくさん！ぜひアクセスしてみてください。

ホームページアドレス
<http://www.hokuso-ikuseien.org/>

Eメールアドレス
hokusoikuseien@e-sazankakai.or.jp

楽しみは「食べること」に集約される。我々のように仕事が終わって家路に着く途中にコンビニで食物を手に入れ、テレビを観ながら夜食を食べる自由をこの人たちは持たない。所謂、食が管理された

暮らしである。このことに格別の留意を図り「消えてなくなるものに渾身の力を注いで」に食事を提供していく義務を強く意識しなければならぬ。それは毎日好物のトンカツやハンバーグを出すということではない。栄養バランスを考え、高齢となった利用者へのペー

スト食、刻み食等を適切に用意する。それは居室担当が「一輪の花」にこだわり、「一輪の花」に心を寄せるのに似ている。
しかし、毎日のこと。仕事に慣れるとこの人たちの置かれている状況に対しての謙虚さを忘れ、出せばいいんだ、食器の並べ方なんて関係ない、冷めた味噌汁当たり前のぞんざいな食事が提供されよう。北総はそんな仕事はしていない。そのプライドが厨房の外部委託を拒否しているのである。それは在宅であれば朝昼晩お母さんが我が子の為に食事を作るのに似ている。ただ作れば良いではなく「我が子が美味しそうに食べる姿」を想像して心を込めて作るのである。提供する3食は限られた時間の中で作ることが求められる。「消えてなくなるものに渾身の力を込めよ」。3食、この人たちの食事に全力を尽くす。その義務を最大限に果たせる体制である。高齢化・介護度の高まりは個別食をもっと複雑にしているが、それでも丁寧に心を込めて作ることが求められる。しかも、もの言えぬ知的障害者。この人たちの食事提供は聖職の心で…。食事だけが楽しみの人も多い。笑顔の厨房スタッフの手による食事はこの人たちの長生きの一助となるのだ。(武井)

特集

共々生きる 医食同源②

10/20 給食研修

平成27年度千葉県知的障害者福祉協会主催給食研修会が10月20日当園で行われた。当日はまず施設見学、皆さん8作業班を興味深く熱心に見学してくださった。また新しい建物も羨ましいとの声が多い中、各居室美化や整理整頓、「一輪の花」の実践について「それはすばらしい」との感想を多く頂く。午後の実践発表は北総の食の歴史を振り返ってから、ビデオ・資料説明。支援・栄養士・調理員・医務・事務他各職種の連携が大切であり、自分の仕事だけでなく相互協力と日頃からの話し合いが不可欠であることを主軸に発表したことが北総の実践をわかりやすく伝えられた要因ではないかと思う。そしてどの事業所でも課題となっている高齢化重度化の課題について大いに議論が弾んだ。

アンケートでは皆さんが大変好意的に感想を記述してくださった。勿論お世辞半分ではあるが大変ありがたい。特に、しもふさ学園小林施設長(研修委員長)からは「皆、目を輝かせて熱心にメモを取っていた。お弁当も大変おいしく明日からまた頑張ろうという気持ちにしてくれた」と大変光栄な感想を頂いた。

北総の実践は他の範になるようなものではないし、毎日問題も多い。しか



▲県内から60名の参加者が集まり「安全でおいしい食事とは？」様々な視点から議論を交わす。H27.10.20

し園長の理念「一期一会一輪の花」は給食提供にも息づいている。絵鳩給食委員長・佐藤栄養士・師岡看護師の連携、そこに調理員・支援員の努力があることは胸を張って言える。ある調理員さんが「こんなに調理の仕事に褒めて認めてもらったら本当にうれしくやりがいにつながる」とおっしゃっていた。自分の仕事だけでなく一人ひとりの職員の仕事に感謝し、無関心でないこと、情報交換をすること、常に向上心を持つ重要さを再認識した。今回60名の参加者をお迎えしての研修会の企画実施では足りないことも多かったが、北総職員にとつて改めて自身の仕事を振り返り、県内他施設にこんな仲間がいることを知り、明日からまた頑張ろうと自分を奮い立たせるよい機会を頂いた。御参加頂いた皆様、研修委員会の皆様、誠にありがとうございました。(副園長 白樫久子)

給食研修・実践報告

看護師としての

食事に対する取り組みについて

北総育成園 看護師 師岡小百合

■食事に生命の危険がないか？

看護師としての食事に対する取り組みとして一番に挙げられるのは、生命の危険を感じ取る観察眼を持つことだと考えます。

現在医務室は北総育成園の新棟食堂前に配置されています。朝食や夕食は、すぐ目の前で行われていますので、日々問題がないか確認を入れて、その都度対策を立てていきます。

利用者の方がムせているという報告の場合、食事をする何処の段階での異常かを考えると共に、緊急性があるのか？という判断をしなければなりません。そして即座に利用者対応を始めることが必要です。

歯がある方ない方？食事の形状は？気道に詰まっていないか？食道での詰まりなのか？水分が気道に流れ込んだ可能性はないか？などです。ムせているという状態でもどの利用者さんか？その状況で全く異なります。そして、1つ1つそれに適した対応をとらなければなりません。

これには、普段から基礎知識を入れて観察眼を持つのはとても大事なことであり、勿論実際の食事を見ることは必須です。しかしながら、看護師一人の力では、到底入所者全員の食事を

充分に見て歩くことはできません。そこで大切になってくるのが、チームワークです。

■支援・厨房・医務の連携について

職員間の共通理解と介助のレベル向上 実際に食事の介助をしているのは支援職員であり、食事提供しているのは厨房職員です。

職員には、反復して半年に1回ほど誤嚥対策講習を実施し、緊急時の対応ができるように全体で勉強しています。

そして重要なのは、小さい変化の時にいかに情報を知ることが出来るかです。支援からの情報はとても重要です。変化の情報が入れれば、食事の様子を見ながら食事介助に加わるようにしています。

それは、時に挨拶しながら、時に作業の様子を聞きながらです。観察眼を持つということは、じつと利用者さんを見ていることとは違います。誰でも自分の食事をじつと見られているのは嫌なことです。利用者職員が食事を共にすることが、北総では当たり前になっています。さりげなく見る。これが大事です。

食事に問題点があれば、食事の形状の見直しなどが即座に行われます。それは昼食で問題があれば、夕食に試してみる、という具合です。その時には必ず看護師1人で判断することは避けるようにしています。まず給食委員長と検討し、次に副園長に報告し、再検討。そこで必要性があると判断された時は園長に報告し、始めて食事の移

行が行われます。

そして厨房への食事変更のオーダーがされます。厨房職員の方への情報伝達は、正確に行わなければなりません。実際に食事がオーダー通りに行われてこそ、利用者個々に合わせた食事提供となるからです。なので、食事変更が行われた時は、繰り返し情報伝達していくようにしています。

■利用者本人が楽しんで食事が出来ているか？
■家庭との協力について

話を戻しまして、看護師の判断だけで食事移行しない理由を説明させていただきます。

食事は最大の楽しみであり、生きることにも原動力を与えていると考えます。利用者さんの傍で1番に寄り添っているのは、施設内では支援職員であり、家庭ではご家族です。

個々の利用者さんの生活や性格はそれぞれ違います。私は、病院しか知らず、ここに入職してから本当にたくさんのお話を学びました。それは時に利用者さん本人やご家族から、そして側で接している支援職員からです。武井園長は、自ら利用者さんの生活の場にも、たくさん入っていらつしやり、本当にいろいろなことを教えてくださいました。それが、今の私にとってもプラスになっています。

まず、病気を看るには、その人を理解しなければなりません。その人を理解することで、初めて治療ができることもあります。食事にしても、誰でも好きな物嫌

いな物があると思います。食事移行時は必ず事前にご本人に個別で話をします。必要性をお話した上で、食事移行とします。また無理をして拒食に繋がらないように慎重にしています。またご家族の理解も重要です。食事は1日3食、休みなくだからです。ご家庭で戸惑わないように、事前にご本人同



1 入所されている利用者さんの年齢や障害特性も違えば、食事の嗜好も色々です。万人の条件に合った食事作りは難しいものです。ましてや1日3食継続して行わなければならない、常食の他、個別食や治療食は計画的に実施していくことがとても重要です。私も長くこの仕事に携わっておりですが、日々の食事作りでは何の問題もありません。限られた時間の中で工夫し、調理員と協力の下、目的意識を持って取り組まなくては良い食事はできません。武井園長がよく話してくる「支援より厨房の方が大変だ」という言葉。安心安全な食事を決められた時間内に仕上げるのが求められるからです。北総の厨房は委託せず直接経営です。それは手作りの食事、おふくろの味、「厨房のおつかあ」精神で温かな食事を提供したいからです。日々たくさんさんの問題、課題と直面しますが、専門技術を活かし、支援、医務、厨房が連携を保ち課題解決に向かって努力研鑽していきたいと考えております。(栄養士 佐藤)

2 新棟食堂で配膳していると何人かの利用者は早めにやってきて話をしている。

様にお話させていただくようにしています。

■終りに

施設での看護師の役割とは、今起こっていることを明確にし、今後起こることを予測して事を進めること。しかしその過程で1番の主役は利用者さんご本人であることを忘れてはい

けないと日々思っています。そしてもう1つの大きな役割として、支援・厨房・医務の連携にも力を注いでいきたいと思っっています。それが、利用者さんにとって、安全で美味しい食事に繋がっていくと思っっています。そしてこれからも、利用者さんの元気のために努力していきたいと思っっています。(了)

Nさんが「おかあさん車でくるの？」と訪ねるとYさんが「うん、車でくる」と普通の会話。その隣でずつとしゃべっているSさんとも話が噛み合っているように噛み合っていないように。でもそんなことはどうでもいいのだ。男女、居室関係なく、何となく一緒にいることがいいんだと思う。聞いていて何だかこっちも笑ってしまう。(調理員 寺田)

3 毎日、食事作りをしていて、利用者さんとも一緒に食べて「おいしかったよ」と声を掛けてくれると、また頑張って作ろうと思っいます。(調理員 額賀)

4 北総には2か所の食堂があります。1か所は本館の厨房の脇で意外と楽に仕事ができます。もう1か所は新棟です。こちらは3か所の重い扉を開け渡り廊下を通ります。屋根はありますが、風の日も雨の日も台車で運びます。1回の食事で7~8回往復します。そんな中で楽しむのは利用者の方々との会話です。朝は身支度を終えた方々が1人、2人と廊下の長椅子に座り、おはようとお声を掛けてくれます。「きょうはなに？」「パンですよ」と答える。「パンだいきすき」と返ってくる。「良く寝られましたか？」との問いに「たくさんねた」と元気よく答えてくれる。時には笑いもある。そんな何気ない会話が何よりの活力です。(調理員 茂木)

5 早番で厨房に入り食器等を運び出すと、廊下には既に数人の方がソファに

座っていたり、歩いていたりする中で、Hさんはいつも手にちりとりとほうきを持ってゴミを集めています。それほどゴミは落ちていませんが、その気持ちは毎日持ち続けているので、私はとも感動しています。台車を運ぶ時にSさんやFさんやKさん等も、いつもドアを支えてくださったりとさりげなく気付けてくださって、心から感謝する日々です。「きょうのおかずなに？」「あしたは？」という何気ない会話を笑顔で交わすことにも感謝です。お返しは心からのおもてなしとして、毎日安全で安心して食べられ、残食の少ない美味しい食事を作ります。

6 後期保職懇談会の日、事務所へ行く用事があり、玄関前を通ったところ、木の置物や色々な作品が販売されていました。中には、猿、羊、牛など木でかたどった作品まであり、「これは何ですか？」と事務の方に聞くと「鍋敷きですよ」とのこと。実用的でプレゼントにしても良いかと購入。厨房へ戻る途中、Fさんが鍋敷きを見て「これおれがつくったんだ」「こうやって」と仕事のやり方を真剣な目で見振り手振りで説明してくれるのです。いつも笑顔で声をかけてくれるFさんですが、きつと仕事は真剣に一生懸命頑張っているんだと、そう思うとこの鍋敷き、大切に使うとこうとおもいました。(調理員 小林)

た。

特集 老いの坂道を支え合って共に生きる

ボランティアに

支えられて

北総では一年を通してボランティア団体の皆さんに来て頂き、利用者と共に作業をしてもらっている。当園は船橋市の指定管理を受け運営している施設なので、利用者の殆どが船橋市の方。距離は遠く離れてはいるが、船橋市内のボランティア団体の皆さんも、北総に心を寄せてくださっている。もちろん、施設がある地元東庄地域の皆様の温かいご支援も普段から賜っており、東庄ライオンズクラブや根方地区、地域のボランティア団体の皆さんとは普段からお付き合いをさせて頂いている。

特にボランティアさんの力なくしては成り立たない作業は、梅雨時期の林産班のどくだみ採り、農耕班のラッキョウ加工が挙げられる。この作業は長年に渡り毎年「明るい社会づくり船橋市推進委員会」の皆様、また地元東庄の「房総の会」の皆様が手伝ってくださっている。また、10月から11月にかけては1年のうちで一番販売が多く集中している時期であり、各作業班それぞれ販売に向け在庫確保に追われる。それでもボランティアさんの力は大きい。今年も船橋市内から3つのボランティア団体の皆様「北総のために」と朝早くから足を運び、利用者と共に汗を流してくださいました。

H27年度ボランティア受け入れ状況

Table with 2 columns: Date and Volunteer Group/Count. Rows include dates from 6月11日 to 11月12日 and various groups like 北総育成園保護者ボランティア, 船橋市・明るい社会づくり船橋市推進委員会, etc.

ボランティアの皆さんに作業を手伝って頂くという事は、きちんと「大人の仕事」を用意するということ。朝早くから自分の休日を使って来てくださる皆さんに、利用者と共に「働くこと生きること」を実感して頂けるような仕事でなければ大変失礼に当たる。そしてボランティアをいつでも受け入れることができる作業班であることが、この人たちを大切にすることに繋がる。入所施設にとつて外からの風を入れることはとても大切なこと。これからも北総に心を寄せてくださる皆さんに恥ずかしくないような作業を利用者と共に継続していききたい。(絵鳩)

※今年度ボランティアに来て頂いた皆様より感想を頂きましたのでご紹介いたします。多くの皆様にお寄せ頂きましたが、紙面の都合上全員分載せることができませんでした。何卒ご了承ください。

初めての北総育成園

ボランティア活動に参加して

明るい社会づくり船橋市推進委員会

武川 桂子

梅雨空の中、少し早起きしてバスに乗車。車中ではお隣同士で楽しい会話が始まり、とても賑やかです。どのくらい過ぎた頃か、窓から青々とした田園風景が広がり、遠い昔の懐かしい古郷を思い出して、不思議と元気が湧いてきます。やがて到着。新しく立派な建物です。職員の皆さんが温かく迎えてくださり、慈愛に満ちた施設長さんが、エピソードを混じえて施設の歴史を話してくださいました。心を込めて入れてくださった温かいお茶と共に、身に沁みました。

私達農耕班は、ラッキョウのひげ根とりと、薄皮むきのお手伝いです。最初は、リーダーさんの「できるだけ私は慎んでください。」を守り、黙々と作業をしていましたが、10時の休憩と、おいしいお弁当をいただいたから、少し緊張もとけ、ついついおしゃべりをしながらの作業になりました。利用者さんと職員さんの楽しい会話と笑い声に、気持ちや和み、頬もゆるみました。全ての作業を終え、記念撮影。園に

戻り楽しみにしていたお買い物をして、施設長さんから謝意の言葉をいただき、お土産を頂戴して、全員で記念撮影。心地良い疲れで帰路に着きました。今回の旅は、私にとってボランティア活動というより、貴重な農業体験をさせていただいた有意義な旅になりました。いつもは、何気なく食べている物も、多くの過程を経て、たくさんの方々のご苦労の結実であると改めて気づき、感謝を忘れてはならないと思いました。参加させていただき感謝申し上げます。そしてまた機会があったら、是非参加したいと思っています。

北総育成園ボランティア感想

明るい社会づくり船橋市推進委員会

吉澤 紀子

初めて参加させて頂きました。

気候に恵まれ、森林浴の中で、鳥の声を聞きながら、どくだみ刈りをしました。利用者さんに話しかけたのですが、反応がなく、どうふれあえばいいのかわかりませんでした。利用者さんに触れ合う職員の方の包容力と絆の深さを感じ、感動致しました。良い経験させて頂きました。草の上で足を投げ出し、景色を眺めながらのお弁当は最高でした。ボランティアをさせて頂きながら癒された1日に感謝です。職員の方の心配りと温かさのお陰で、とても楽しい1日を過ごすことができました。有り難うございました。



北総育成園での
ボランティア研修に参加して

船橋市塚田地区社会福祉協議会ボランティア
室 和子

9月18日の北総育成園のバス研修会に参加しました。昨年に続き2回目です。

新しくなった施設を見学し、昼食後、私たちは7つの班に分かれボランティア体験をしました。私は林産班に入りました。お天気が良くなかったので、室内で干しシイタケのパック詰めと生シイタケの袋詰めをしました。職員の方の指導のもと始めましたが、初めてのことなので思ったようにはできません。四苦八苦している私たちに、入所者の方がさりげなく手伝ってくださいたり、アドバイスしてくださいとことが印象に残りました。

お土産に、自分たちでパックした干しシイタケと袋詰めした生シイタケを買い求めました。夕飯に香りの良い生しいたけを頂きました。

北総育成園ボランティア
体験研修会に参加して

船橋市塚田地区社会福祉協議会ボランティア
加藤トヨ子

園の玄関前には副園長さんを始め、スタッフの方々が迎えてくださいます。とても温かさを強く感じました。

武井園長さん、名譽村長さん、スタッフの方々と早々にお会いし、リニューアルされた新館において、40周年を迎えられたお祝いの様子などのお話を伺うことができました。塚田地区社協に

感謝状も頂き感謝致します。新館の個室・食堂・浴室等々説明と同時に拝見させて頂きました。女性ルーム・男性ルームとに分かれた各々の個室には、様々な手作りのれんが飾り付けられていたのでとても感動しました。「一期一会一輪の花」とは各個室の一輪挿しに生けられた「野の花」を指し、園生一人ひとりの人生の生き方や、元気で毎日過ごされますように、と絶対に枯らさないように心を込めて毎日お水を取り替えることだそうです。私達日々何となく元気で過ごしていることやボランティア活動等々も、またもう一度考え直さなくてはならないことが沢山あるのではないかと感じられ反省しています。

施設研修に参加して

船橋市習志野台地区社会福祉協議会ボランティア
理事 高橋 敏夫

習志野台地区社会福祉協議会主催の



▲「明るい社会づくり船橋市推進委員会」の皆様のごクダミ採りはもう30年以上継続中。H27.6.18

「北総育成園」施設見学及び体験研修会に参加させて頂きました。平成27年10月22日(木)朝8時45分に北習志野花輪病院前に30名余りが集合、大型バスで東関東道路を遠路移動し、約2時間無事到着しました。ここが船橋市の施設だということを知って少々驚きました。園内見学の後、武井施設長のお話、そして昼食をとり、午後からは各班に分かれまして、私は園芸作業を体験しました。たいへん良い経験になり、有り難うございました。

知的発達障害をもつ入居者の対応は、健常者のそれとは比較にならないほど大変であることは、容易に想像できます。しかし、実際にそれを目の当たりにしたとき、職員の方々の大変さや頑張り、頭が下がる思いでした。

高齢化社会の到来で、認知症になる人が、予備軍を含めて65歳以上の1/4が該当することです。今以上に医療や介護など、福祉関係が大きな社会問題となつてまいります。本年度から、船橋市役所健康福祉局の組織が改正されました。健康高齢部の新設や保健福祉センターの開設など、行政もそれらに対応の構えです。

現政権が掲げる「介護離職者ゼロ」は到底難しいことですが、目標として少しでもそれに近づけるようになって欲しいものです。そして、社会的弱者の障害者の方々のいろいろな権利が守られる世の中になって欲しいと念願しております。

村議会だより

116

ボランティアの皆さんにはもちろん作業を手伝って頂くことが主となるが、作業を終えた後のお買い物も大変有り難いこと。ここで大活躍するのが福田さん。福田さんは昭和49年北総開所時から利用しており、言わば北総の歴史と共に歩んできた方。ボランティアや見学者の方々にお出で頂く時は園長と共に北総の代表としてお客様を出迎える。また、年に2回、船橋市長さんへ北総製品を持つての表敬訪問では、園長のお供として必ず参加している。

福田さんの柔らかい笑顔とユーモア溢れる人柄は、初対面の方でも心を掴まれるほど魅力的。ましてや何度か北総を訪れたことがある方は「福田さん、元気だった? 会いたかったよ!」と声を掛けてくださる。この福田さんパワーで皆さんのお財布の紐も緩むのか? 売り上げが良いのは確かである。(菅谷)



▲今年も船橋市長さんへ園芸班のシクラメンと紙工芸・陶芸班の申の干支飾りを届けることになった。北総を代表して福田さんが松戸市長さんへお渡しする。H27.11.24

街道をゆく ⑬〇

働くこと 生きること、そして食べることに！

支援課長 絵鳩 典子

今号の表紙でも触れましたように、施設で暮らす利用者にとって、「食べること」は一番の楽しみでもあります。

その「食べること」に特化し「あなたの好きな食べ物を3つあげてください」という嗜好調査を実施しました。給食厚生委員会でも年に3、4回程嗜好調査を行っています。今回は聞き取りの方法を変えて、単純に「好きな食べ物は？」という質問をして回答を得ました。今回の調査で初めて知ることも多く、とても興味深い結果となりました。また、職員にも同じ嗜好調査を実施。以下に調査結果をまとめ、北総での食文化を考えてみました。

※対象利用者；言葉のある方40名（男性25名・女性15名） ※対象職員；主に支援職28名（男性14名・女性14名）

「あなたの好きな食べ物はなんですか？」3つあげてください・利用者編 (票集計：榊)

◎男性利用者ベスト3

- 1位：5票 ハンバーグ・パン・コーヒー
- 2位：4票 からあげ
- 3位：3票 コロッケ



◎利用者総合ベスト3

- 1位：8票 コーヒー
- 2位：7票 ハンバーグ
- 3位：6票 パン (笹川なずな工房のパン)

◎女性利用者ベスト3

- 1位：3票 お寿司・コーヒー
- 2位：2票 ハンバーグ・刺身・カレー・かつ丼・親子丼・いちご・ショートケーキ・ホットケーキ・コーラ
- 3位：1票 その他いっぱい…



▲ラーメンは時間との勝負。アツアツの内に利用者に届けたい！盛り付けにも気合が入る！?

「あなたの好きな食べ物はなんですか？」3つあげてください・職員編

◎男性職員ベスト3

- 1位：3票 カレー・ラーメン・お寿司
- 2位：2票 ステーキ・お刺身・マーボー豆腐・コロッケ・焼き肉
- 3位：1票 その他いっぱい…

◎女性職員ベスト3

- 1位：4票 お寿司
- 2位：2票 ラーメン・からあげ・餃子・つけ麺
- 3位：1票 その他いっぱい…

◎職員総合ベスト3

- 1位：7票 お寿司
- 2位：5票 ラーメン
- 3位：4票 カレー



▲毎週土曜日昼食は基本的に麺献立。「おっかあ」の真心がたくさん詰まったおいしいラーメン。H27.10.3

コメント

まず、男性利用者だが「ハンバーグ」「パン」と並び何と食べ物ではなく飲み物の「コーヒー」が堂々同率第1位。コーヒーは本当に人気で利用者からの要望も強く作業のおやつや夜の余暇時間に飲むことも多い。

「ハンバーグ」はスタンダードなハンバーグからヘルシーなおからハンバーグ、林産班の椎茸をたっぷり使ったきのこハンバーグとバリエーション豊かで献立の登場率が高いメニューである。「パン」は火・木・日曜日の朝食で提供。火・木は笹川なずな工房のパンを提供。特にフレンチトーストが人気。続いて「からあげ」「コロッケ」と揚げ物がランクイン。共にお弁当の人気おかずトップである。女性も「コーヒー」が1位。老若男女問わず不動の1位である。何でコーヒーが食べ物に思うのが要するに好きなのだろう。そして2位は9種類もランクイン。となると3位は1票あれば良くその数19種類に及んだので割愛した。男性と違いガッツリ系のおかずではなくケーキ等のスイーツが上位なのは女子特有か。一方、職員は「おすし」「ラーメン」「カレー」とまさに国民食のベスト3がそのまま登場。日本中で同じような結果が出そうだ。このアンケートで特筆すべきは職員の「好きなもの」であげられた料理名の豊富さ。和食、洋食、中華にイタリアンと様々な料理名があがった。

今回、利用者、職員それぞれの好物を調査した訳だが、我々職員であればプライベートの時間を使ってそれらを好きな時に好きなだけ食べられる自由を持つ。一方、利用者は園での食事が殆ど。だからといって施設での食事が哀れなわけでも貧しいわけでもないが、私達職員は常にその「差」を胸に置かなければならないと思う。だからこそ「安全」「安心」を基本に「美味しく楽しい」にもきちんと応えられる食事でありたいと思う。毎日豪華な食事は提供できないが、地元笹川の夏祭りや村議会主催のビアガーデン、忘年会等では、カロリーや量をあまり制限せず、厨房手作りのバラエティ豊かなメニューを皆で楽しく頂く。高齢化により以前よりは少なくなりましたが、地域のレストランでの外食も実施し、少しでも利用者の願いに適った食事を共に楽しんでいる。

北総の食文化は「美味しく楽しく安全に」、そして、命を頂くこと、その命を最大限に生かして美味しい料理にしてくれる厨房職員への感謝の気持ちを大切にすることを連綿と受け継いできた。高齢化による食事提供の複雑化、煩雑化は避けて通れない道だが、これからも支援・厨房・医務とお互いの専門知識を活かし合いながら、豊かな食文化を育てていきたい。

同法人施設「のまる」 家族会見学来園

去る10月26日、北総育成園と同じ「社会福祉法人ささなづか会」が運営する施設「のまる」の家族会の皆さん15名が来園、見学をされました。「のまる」は船橋市にあり、北総育成園と同じ「生活介護」「入所支援」の事業所です。同じ法人の施設と言っても、船橋市と東庄町では距離が遠く、なかなかお会いすることはありません。今回、北総育成園のバリアフリー新棟の完成と、本館大改修工事が完了したこともあって来園、見学の機会を得ることができました。家族会を代表して2名の方に感想を頂戴しましたのでご紹介いたします。

◆のまる家族会の北総見学

のまる家族会 田島 逸子

秋晴れの日、楽しみにしていた北総育成園の見学会に参加した。船橋から約2時間。やはり遠い。

新しくなった居室は明るく陽が差し、整頓された各部屋には野の花が飾られ、暖かな雰囲気だ。

外には広大な敷地に花卉・椎茸・陶芸・紙漉きなどの作業棟が点在し、室内では手芸などに利用者さんがスタッフと共に作業に励んでいた。以前は外での作業をしていた方でも加齢や体調により室内での作業に変更したり、食事も刻み食やとろみ食にするなど高齢化の影響が色々な形で出てきているようだ。

そして私が一番見学したかった機械浴の施設。広い浴室にシャワーと、浴槽にビタリと収まる専用の車椅子。我息子が身体不自由になってから他の施設でお世話になってきている機械浴のことがよく理解できた。のまるにも欲しいけれど、うーん、かなり高価そう！

昼食は、なずな工房で美味しいパンを買い、評判のジャムも購入。清潔な環境で意欲に満ちた利用者さん達が頑張っている姿に、地域交流にも力を入れていて素晴らしいと感じた。

◆北総の里「見学を終えて

のまる家族会 高橋 利正

本館玄関に一行15名で入場するなり、まず最初に目についたのは展示即売されている陶芸品の数々。どれも皆中々の出来映えであるが、その中でもひと際自分の心を鷲掴みしたのがまるで利休作かとおぼしき黒褐色の茶碗。後で同行の他の参加者に先に買われては一生の不覚と直感し早速ゲット。400円!?有り得ない価格である。更に白樫副園長のご案内で風呂場、シャワー室と見学の歩を進める。そして何やらやたら目につくのが戦国最強武田軍団の旗幟、風林火山。まさかここは甲斐武田信玄やまた?として各部屋、ユニットのリビングや他居住区にさりげなく置かれた花一輪。まるで利休庵さながら。少しも出すぎている野の花であ

る。その後いよいよ屋外へ案内され眼前の光景に圧倒され続けた。広大な敷地の中に展開されるそれぞれ個性豊かな殖産現場。林産班のしいたけ栽培、農耕班の種植から始める文字通り地産地消の甘酢らつきよ、陶芸班の器作り、園芸班の真綿色したシクラメンの花、ここの木の栽培からこだわりの和紙を使用して作る毎年の十二支をモチーフにした床の間飾り。ここでも又風林火山を発見。そして陣幕に印された武田菱。

作業に従事する利用者さんも夫々の特性や体力に応じて集中されていたのが印象的。寄り添う介助の職員さんもおいしいうつきよは帰宅翌日早速15袋オーダー!!

豊かな自然と地元農家・住民の理解と協力、入居者を支え寄り添う職員さん達の心ざし、真に天地人の輪の中になり立っている。最新の立派な設備の整った建物には確かに目を見張りました。しかし人の作ったものはいつか老朽化していきます。大切なのはそこで集い暮らす人々の、大らかに、細やかに、さりげない、共生の心ではないかと感じた一日でした。最後に自分が大好きな武田信玄の座右の銘を以て筆を置きます。

人は城、人は石垣、人は堀
情は味方、仇は敵なり (了)

太田川の ほとり

(127)



本館、新棟すべての居室を使つての生活がスタートして早、半年。真っ白い壁、同じ間取りに少しでも彩りを付け、その人に合った素敵な空間を作っていくこと、前期にまずは共有スペースであるユニットごとのリビングに飾る掲示物を作成した。そんな中、7月の保護者職員合宿研修会でのしおさいホームの見学や、9月の広島ひとは福祉会への研修で、個性と温かみが溢れる個室作りを目の当たりにし「もっと工夫できることがあるのでは？」と気付きを得る。園長も「この人たちが一生懸命生きてきた人生が感じられるような、そして文化の匂いがするようない個室作りをやってみよう」と後押ししてくる。若い職員も増えた。その人がどんな思いで生きてきたのか、そして、この人たちの後ろには必ずちはあにあげがいてくれたことを実感できる機会を、ぜひこの個室作りで共有できればと個人のアルバムに撮り貯めた写真を選出。皷も白髪もない若々しい姿、今は亡きちははや仲間との笑顔、真剣に作業に打ち込む横顔、韓国、ハワイ、北欧、中国への海外旅行…。その人に合うフォトフレームを用意し飾る。縁あって共に生きるこの人たちの年を重ねた「今」だけでなくその人の「歴史」にも思いを乗せて心のこもった支援をしていきたい。(絵鳩)

みんなの広場

① 紙工芸班のSさんのこと

紙工芸班の利用者は男性7名、女性2名。その中で一番、紙工芸班歴が長いのが女性メンバーであるSさんだ。Sさんは紙工芸班が誕生した平成元年から所属しており、紙工芸の歴史と共に歩んできた方。ちよつと頑固でマイペースな面もあるが、Sさんが根気よく叩いた楮の出来上がりはとつても細かくフワツとしていて、楮叩きの名人であつたと先輩職員から聞いている。そんなSさんも年々、年を重ねるごとに身体機能の低下や場面の切り替えが上手くできず流れに乗れないといった様子が見られるようになってきた。介護度も高く歩行も食事も職員が一人ついている。ここ一年でもその変化の度合いは大きく、もう楮叩きや仕事への理解は難しくなつてしまった。そんなSさんの役割は椅子に座つて紙工芸班の大先輩として皆を見守ること。Sさんの後輩であり仲間であるもう1人の女性メンバーIさんはSさんのことをいつも気にかけてくれる。職員が

Sさんの食事の介助をしていると、Iさんも「あ〜ん」と不明瞭な発音ではあるがSさんに声をかけてくれる。座っているSさんの手を握り「うふふふ」と嬉しそうな表情。「Sちゃん」と話しかけていることもある。長年に渡り育んだ2人の絆と温かさを感じる。介護度も高くなつてきたSさん。大変なこと多いが紙工芸にいくれるだけで、その存在が温かく、紙工芸班の皆に愛されていると感じる。出来ることなら一日でも長く紙工芸班にいて欲しい…と日々思う。

(高橋ち)

② 利用者から学ぶ

「働くこと生きること」

北総で働き始めて半年が過ぎ、思い返せば本当にあつたという間であつた様な気がします。農耕班に配属され日々畑に行き様々な野菜を作りながら、利用者の方々の働きを側で見て、声をかけ、共に過ごし、どんなに些細な作業でも、もくもくとやり抜くその姿は見

習うべき美德であると思ひました。

また、10月の居室美化の際に、居室毎に今までの利用者の方の昔の写真等を飾りつけ、皆さん昔は若かつたんだなあと当たり前のことを思いながら各居室に入る度とその部屋の方の昔の写真を見ました。びっくりしたのが広瀬さん。今も林産で頑張っているのですが、写真の日付を見るとなんとH4年!!私も以前椎茸を作っていました。遥かな大先輩に思わず畏敬の念を覚えました。

(龍)

林産班の椎茸の個性

林産班の椎茸を詠む



・椎茸が 今日もある出る 嬉しい悲鳴
加瀬 裕一
・椎茸も 太め細めと 個性あり
林 直子
・北総で 採れる椎茸 良い香り
小林 幸代

▲採る人 林さん、カゴ持つ人 井上さんの名コンビ

編集後記



この編集後記を書いているのは11月下旬。皆様のお手元に届く頃にはもう師走の時期。一年、過ぎるのは本当に早い!と毎年、同じことを言っているような…。

さて、今号の「北総の里」では特集老いの坂道を支え合つて共に生きる」と題しまして、様々な視点から高齢化が顕著になつている北総の「今」を切り取りました。特に「食事」にスポットを当て、食生活の中で一番の楽しみとなつている利用者に対し、どのような気持ちで日々対応しているか、支援、医務、厨房のそれぞれの立場から検証しました。

9月から10月にかけて、個室美化に取り組んだことも掲載しています。私が担当しているあざみ寮の女性メンバーは、既にご両親やご兄弟を亡くし、帰宅が叶わないメンバーも多いです。今回、個室にそれぞれの思い出の写真を飾ると、予想以上に喜んでくれる姿がありました。「おかあさんだよ!」「かみこく、いったの!」等、生き生きと話すその横顔を見て、もっと謙虚にこの人々と寄り添い、鬼籍に入られた父母に安心してもらえるような支援をしていこうと改めて思いました。皆様にも興味を持って読んでいただければ幸いです。

(絵鳩)